

国際ロータリー第2730地区

高鍋ロータリークラブ

会報



会 長 中武泰一郎
副会長 函 師 義 孝
幹 事 藤 本 範 行
例会日 毎週木曜日 12:30~
例会場 ホテル泉屋 2F
事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 1368-4
ホテル泉屋内 TEL/FAX 0983-21-1636

第 1724 回 平成 24 年 2 月 2 日プログラム

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 点 鐘 | 7. 月初めのセレモニー |
| 2. ロータリーソング | 8. BOX披露 |
| 国家、奉仕の理想 | 9. 各委員会報告 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 10. 会員卓話 |
| 4. 会長の時間 | 11. 次週例会案内 |
| 5. 幹事報告 | 12. 点 鐘 |
| 6. 出席報告 | |

2730 地区ガバナー 長峯 基

中部分区ガバナー補佐 林 務

2730 地区テーマ

とにかく「善いことをしよう。」

高鍋ロータリークラブテーマ

原点をみつめ「団結」「創造」「挑戦」

2月の月間テーマ

世界理解月間

本日の例会案内

*米山ランチ

*月初めのセレモニー（誕生日1名、結婚祝2名）

*会員卓話—坂田師通君・清水一彦君

次週例会案内；2月9日（1725回）

*外部卓話—上田 普様（国際奉仕担当）

*血圧測定

第 1723 回 例会内容

■会長の時間

会長 中武泰一郎君

今年の南極探検隊は、例年以上に氷が厚く、18年ぶりに観測船「しらせ」での、昭和基地への接岸を断念したそうです。

1月28日は、今から100年前の1912年

（明治45年）にこの観測船「しらせ」命名の由来ともなりました。白瀬中尉率いる南極探検隊が大陸に到達しています。最終到達点の南緯80度5分・西経165度37分の地帯を「大和雪原」と命名した日であります。

この時は、アムンゼン隊とスコット隊が南極点到達を目指して、先陣争いをしていた時期であります。

その時、まだ後進国にすぎなかった日本が、南極大陸に足跡を印した事は、日本民族の積極進取（しんしゅ）の気質を物語るものとして、長く記憶に残るべきことだと思います。ただその後の白瀬は、探検の資金返済に追われて、生活は困窮していたらしく、1946年に今の愛知県豊田市で85歳で死亡しましたが、死因は、栄養失調による飢死だったそうです。遺族は、浄覚寺という寺が引き取り面倒を見たそうです。

この寺には、偶然にも1956年の第1次南極探検隊



で隊長を務めた、永田武が疎開してきていた。一時期を白瀬の遺族と過ごした。日本人が南極点に到達したのは、1968年の第9次越冬隊でした。白瀬の南極大陸上陸から56年後の事です。

最近、最高裁判所の判決等もありましたが、国歌の在り方が問題になっております。元歌とされておりますのは905年の勅選和歌集「古今和歌集」巻七。賀詞（がし）にある読み人知らず。賀詞は長寿を祈る歌。

「わがきみは 千代にましませさざれ石の いはとなりて苔のむすまで」といわれております。

意味は「私の敬愛する人よ 千年も八千年も小さな石が巨岩となってさらにその表面を苔が覆うようになるまでの長い歳月をどうか息災でいてください」というもの。

国歌としては、「薩摩琵琶歌」の名曲である「蓬莱山」の歌詞の1節を引用したものが、1880年（明治13年）に宮内省の林広守とドイツ人のエッケルトによって編曲された。「蓬莱山」が選曲されたのは、この任を担った大山巖が薩摩出身で、日頃からこの曲に慣れ親しんでいたのと、作詞が、薩摩中興の祖である島津忠良であった事があるようです。

「君が代は 千代に八千代にさざれ石の 巖となりて苔のむすまで」

1888年（明治21年）10月30日に初めて演奏されました。11月3日の天長節（天皇誕生日）に公に披露されております。1893年（明治26年）には、「小学唱歌」にも正式に載せられております。

■幹事報告

幹事 藤本範行君

<文書案内>

- *赤い羽根共同募金・街頭募金協力お礼と団体助成金助成審査委員のお願い
- *23年度赤い羽根共同募金運動による24年度団体助成金の決定について



*中部分区会長幹事会開催のご案内

日時 平成24年2月14日(火) 18:30~

場所 佐土原町 「めおと寿司」

- *書き損じハガキ、切手、テレカ送付の報告について
- *西都ロータリークラブより2月の例会案内
- *佐土原ロータリークラブより2月の例会案内
- *薬物乱用防止指導員の推薦について

<理事会報告>

- ①ミニラグビー大会の件 昨年と同額で承認
- ②米沢上杉ロータリークラブ来訪の件
2月23日を夜間例会・歓迎会に変更で承認
- ③薬物乱用防止指導員の件
社会奉仕リーダーの福岡君にお願いで承認

◆出席報告

出席リーダー 福本幸良君

出席状況

会 員 数	46名
出席会員数	31名
ホーム出席率	70.45%
前々回修正出席率	86.36%



◆BOX披露

親睦活動リーダー 石田喜克君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

藤本範行君 情報委員会の皆様、今夜は準備と研修を有難うございます。急用で出席できず申し訳ありません。宜しくお願いします。

河野修君 結婚記念日のお祝

いをいただき有難うございました。



■情報集会

R 情報リーダー 田中晴敏君

- ①ムービー「最初の一つだった」(DVD)
- ②クラブ奉仕の原点を求めて(田中毅氏 資料)



ポール・ハリスの肖像画
佐々木君 作



◆情報集会に参加して

広報・雑誌・ITリーダー 日高 茂君

当クラブでは、ロータリー理解月間に合わせて夜間例会を30分で終了し引き続き情報集会を開催した。

情報集会は情報小委員会リーダーの田中晴敏君が講師を務めてくれました。

業務の都合で集会に間に合う様に駆け付けた会員もおられ、かなりの参加者数であった。

最初は、明日27日がポール・ハリスの命日に当たることから、正面壇上に佐々木九州男君作成の大きな肖像画を置き、それに向かって全員起立して黙とうを行うことから始まった。

次に田中君からDVDとプロジェクターを使用して、青年弁護士ポール・ハリスが当時のシカゴの商取引に耐えかねて、友人と公正な取引等について相談しロータリーと言う会合を考えたこと。次々と心を同じくする仲間を増やしながらお互いの事務所を持ち回りにしたロータリーの創成期などについて分かりやすい説明であった。

放映後はロータリーが発足したシカゴの湖畔ホテルに所在する事務室へ行った事のある尾崎敏弘君から、ユーモア溢れる感想の話もあり、その時代のロータリーの雰囲気や場所などに大いに興味をひかれた。

続いて日本の有名なロータリアンや先駆者の紹介等については、日本のロータリーの裾の広さに感心させられました。特に、ロータリーは親睦に始まり親睦で終わるものの、その中には職業奉仕や社会奉仕が当然として含まれるもので有ること、ロータリー活動の原点はクラブであることからその活性化を図ること、そのためのクラブ運営は如何にあるべきか等の話は、ややもすれば例会に出席して食事を摂って終わりと、安易になり易い心の弱さを突かれた感じがしたものでした。

今回の田中晴敏君のロータリーへの思いを込めた【奉仕の理念】は参加者に今一度、自身の心に向かい直してみることに、気付かせてくれたことと思われます。

後日配布される2680地区PDG田中毅氏の【クラブ奉仕の原点を求めて】で、ロータリーの勉強をしたいと思ひます。

